「人の子が神の右に立っておられる」
――ステファノの殉教

使徒言行録６：１－９、７：５１－６０

司祭　ヨハネ 井田　泉

2023 年 4 月 30 日
復活節第 4 主日

京都聖三一教会にて

先ほど朗読された使徒言行録第 7 章は、ステファノ（ステパノ）の殉教を伝えていました。最初の殉教者ステパノを記念する日は、祈祷書によれば 12 月 26 日です。それなのになぜ、主イエスの復活を記念する復活節に彼の殉教の記事が朗読されるのでしょうか。それは、このステパノの中に復活の主イエスが生きておられたことを、わたしたちが知るためではないでしょうか。

最初の教会がエルサレムに始まり、次第に人数が増えて行ったとき、ヘブライ語を話すユダヤ人とギリシア語を話すユダヤ人とが、教会には混じり合っていました。両者の間に深刻な葛藤が生じました。少数派であるけれども次第に増えつつあるギリシア語会衆が、差別扱いをされているというのです。最初の教会は貧しいやもめの生活を支えることを大切にしていたのですが、ギリシア語会衆のやもめが軽んじられて、分配が公平でないという声が上がっていました。

貧しい人々を大切に受け入れ、必要に応じて支援するというのは、最初の教会の大事な特徴でした。貧しい人が教会に来られなくなる、というようなことが起これば、それは本来の教会の精神を失ったことになります。

このような教会のあり方と働きをしっかりと実現していくた

めに、12 使徒以外に、新しく 7 人の指導者が任命されました。この 7 名のひとりがステパノでした。

しかしステパノは教会の奉仕的な働きのみを担ったのではありません。彼は**「“霊”と知恵に満ち」**ていて（使徒言行録 6:3)、主イエスによる救いを非常に力強く語りました。彼の言葉と行動を通して、多くの人々が主イエスに出会う経験をしました。そして次第に信徒は増えて行きました。ところがそれによってステパノは、力を持つ人々の憎しみを買うことになったのです。

主イエスが多くの人々にいのちを与えたように、ステパノは多くの人々に主イエスのいのちを伝えました。主イエスが権力を持った人々によって秩序破壊者として迫害され、捕らえられたように、ステパノも迫害され、捕らえられました。

捕らえられたステパノはユダヤ人の議会、最高法院に引いて行かれ、大祭司から尋問を受けることになりました。主イエスと同じです。

ところがその尋問が、かえってステパノにとっては福音を語る機会になったのです。被告であるステパノ、裁きを受けているステパノが堂々とイスラエルの救いの歴史を語り、最後には裁きを行っている人々の罪を明確に指摘するに至ったのです。

「かたくなで、心と耳に割礼を受けていない人たち、あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖が逆らったように、あなたがたもそうしているのです。いったい、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを預言した人々を殺しました。そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった。天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守りませんでした。」使徒言行録 7:51-53

ステパノは、罪なき神の子、救い主イエスを処刑した大祭司と最高法院の罪を責めました。これを聞いた人々はどうしたか。

「人々はこれを聞いて激しく怒り、ステファノに向かって歯ぎしりした。」7:54

怒りと憎しみが燃え上がり、ステパノに対する殺意が人々を突き動かします。自分が殺されることを感じたステパノは、天を仰いで祈るしかありません。

「ステファノは聖霊に満たされ、天を見つめ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスとを見て、『天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える』と言った。」7:55-56

「天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える」

とステパノは言いました。天が開いて、神の現実がありありと見えてくる。神の栄光の輝きが見える。その中にイエスが、神の右に立っておられるイエスが、ステパノにははっきりと見えました。

イエスが神の右に立っておられる。

ところで聖書は別の箇所では、天に昇られたイエスは父の右に座しておられる、と言っています（ローマ 8：34）。わたしたちの礼拝でも、先ほど唱えた「大栄光の歌」でもそうですし、この後ご一緒に唱えるニケヤ信経でも**「(イエス・キリストは)天に昇り、<u>父の右に座しておられます</u>」**と唱えます。

ところがこのときステパノが見たのは、**<u>立っておられるイエス</u>**です。イエスが立ち上がられた。

今、イエスは天にあって立ち上がられました。なぜか。非常事態だからです。死のうとするステパノを支えようとして、殺されようとするステパノを引き受け、抱きとめようとして、イエスは立っておられます。

すでにここでステパノはイエスの愛によって抱かれました。殺されようとしてステパノは、究極の平安で満たされました。

「天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える」

しかし

「人々は大声で叫びながら耳を手でふさぎ、ステファノ目がけて一斉に襲いかかり、都の外に引きずり出して石を投げ始めた。……人々が石を投げつけている間、ステファノは主に呼びかけて、『主イエスよ、わたしの霊をお受けください』と言った。」7:57-59

自分のことを引き受けてくださったイエスに、ステパノは自分をゆだねたのです。

「それから、ひざまずいて、『主よ、この罪を彼らに負わせないでください』と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。」7:60

天を仰ぎ天と通じたステパノ、イエスに自分を引き受けていただいたステパノには、もはや恐怖も怒りも憎しみもありませんでした。ただ、憎しみにかられて自分を殺そうとしている人々の姿があまりにあわれで痛ましかった。死のうとするときステパノは大声で叫んで、**「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」**と祈って、眠りにつきました（7:60)。

主イエスの最期と、何と似ていることでしょうか。ステパノの中にイエスが生きておられました。

このような迫害と殉教によって、教会は没落したか。そうで

はありません。反対にこのような迫害の中、切なる祈りと忍耐と活動によって、教会は成長したのです。復活の主イエスの力が働いていたからです。

わたしたちの教会も、このようなステパノの精神と祈りを受け継ぎたい、また復活の主の力を受けたいと願います。

わたしたちも危機のときに、主に従おうとして困難に直面するときに、天を仰いで祈りたい。そしてイエスの姿を見たい。たとえわたしたちはステパノのようにイエスを見ることができなくても、イエスは、わたしたちの危機のときにわたしたちを引き受けようとして立ち上がってくださる。イエスがわたしたちを抱きとめてくださるのです。

祈ります。

神よ、わたしたちにも天を仰がせてください。わたしたちが困難を抱え、あるいは危険にさらされるとき、わたしたちのために立ち上がられるイエスを見させてください。ステパノの信仰と祈りを受け継ぐ教会にしてください。イエスの愛がわたしたちのうちに浸透しますように。主のみ名によってお願いします。アーメン